

# 「地域は教科書とはちょっと違った“学びの場”」

## ～都立新宿山吹高校「共生をめざすボランティア」

東京都立新宿山吹高校定時制は、都立高校として最初に設立された単位制・無学年制の昼夜間開校の定時制課程(普通科、情報科)と通信制課程(普通科)を併設している特色ある高校です。社会人を対象とした生涯学習講座も開設しています。生徒は一人一人の生活スタイルや学習ペースに合わせて科目を選択しますが、この科目の一つに「共生をめざすボランティア」(以下「共ボラ」)があります。

### 「共生をめざすボランティア」とは

「共ボラ」は、平成19年度からはじまった教科「奉仕」の新宿山吹高校での科目名です。「ボランティアの意義を理解するために、地域社会の具体的ニーズに応じた活動・体験を通して、共生をめざす市民としての能力を身につける」ことを目標として、生徒の自主的な活動の取組を最も重視しています。授業や体験活動にはポイントが定められており、25ポイント以上になると1単位の修得となります。



ワークショップでは、聞きたい団体のコーナーに集まって

### 体験活動先の一つ、「スープの会」新部聖子さんに お話を伺いました。

スープの会は、路上生活者を毎週訪問しているボランティア団体です。高校生には、配布する味噌汁の準備と、新宿駅近辺の訪問活動を他のボランティアさんと一緒に体験していただいています。最初はかなり緊張した様子の高校生も、約2時間の活動が終わるころには自分から話しかけることができるようになり、楽しかったといって授業が終わってから友人と一緒に来た方もいました。新宿山吹高校では「施設・団体連絡会」があり、地域の施設や団体ともつながりができました。教科書とはちょっと違った「学びの場」として、地域に出るきっかけをお手伝いできればと思っています。



「スープの会」は映像を交えて活動紹介



ボランティア講演の様子

ボランティアワークショップの前の時間には、ボランティア講演が開催されます。夜の第3回講演では、区内に東京事務所がある「社団法人シャンティ国際ボランティア会」の緊急救援担当、薄木浩一郎さんと白鳥孝太さんに、避難所等の映像を交えながら、災害時のボランティア活動の実際や日ごろから地域や個人で準備できることについて話していただきました。阪神淡路大震災の時、神戸市内では倒壊した建物の下敷きになってしまった人々を救出したのは、「近所の方」が60.5%で1番目、2番目は「家族」で18.9%というデータが紹介されました(神戸市で「救出・救助に当たった人」の内訳「避難所の神戸市民840人の聞き取り調査」神戸市消防局調査:平成7年2月)。震災時には、まずは自分の身を守ること、そして怖いかもしれないけれど、近所の方の救出にぜひ手を貸してほしいと話されました。

「関わった団体から今まで知ることのなかった色々な活動を知ることができた。活動をしている側に立った視点が生まれ、得たものは大きい。」という声もあり、体験活動に積極的な意義を見出している高校生が多くいます。高校生が地域の様々な人たちと出会い、活動する時間をもつことは、生徒自身の成長というだけではなく、地域社会にとっても活動の拡大など大切な意味をもつ機会になります。生徒自身と活動先・地域の両方にプラスになる、このことが「共生をめざす」という科目名が意味するものになっています。

12月に開催される文化祭で、「共ボラ」の活動報告が予定されています。